令和６年（2024年）３月25日

令和５年度（2023年度）特別支援連携協議会　概要

北海道教育庁胆振教育局教育支援課義務教育指導班

令和６年２月28日（水）に、Web会議システムにより胆振管内の特別支援連携協議会を開催しました。
本協議会では、事務局から令和５年度胆振管内特別支援教育の推進について説明した後、「令和５年度発達障がい支援成果普及事業」の連携推進地域（豊浦町）の取組内容と、適切な就学に向けた現状と今後の方向性についての話題提供を踏まえ、関係機関の連携促進に向けて構成員による協議を行いました。

豊浦町こども支援シート

話題提供①：「豊浦町における支援ファイル作成の取組について」

豊浦町総合保健福祉施設やまびこ総務係長　石　丸　美　穂　氏
豊浦町教育委員会生涯学習課学校力向上アドバイザー　髙　島　康　範　氏

今年度作成した「豊浦町子ども支援シート」の説明や、豊浦町の小・中学校における特別支援教育の取組状況について、話題提供いただきました。

- ○　保育分野、教育分野、保健分野、障がい福祉分野の引継ぎに係る課題を整理し、必要な情報を集約した「豊浦町子ども支援シート」を作成した。
- ○　支援シートを活用し、特に保育分野から小学校への引継ぎの強化を図るとともに、保護者と連携しながら、発達障がい等の状態を把握する。

話題提供②：「適切な就学に向けた現状と今後の方向性」

北海道教育庁胆振教育局教育支援課長　丸　山　敏　儀

本道の特別支援学級や通級による指導の現状から、適切な就学先や学びの場の決定に向けた考え方や教育局における取組の方向性について、情報提供しました。

- ○　本道の特別支援学級数は増加傾向であり、「可能な限り共に学ぶ」ことに逆行していないか心配がある。
- ○　本道の言語障がい特別支援学級数は、全国の言語障がい特別支援学級数のかなりの割合を占めている。
- ○　さらなる適正就学の推進（教育支援委員会の機能充実）と通級による指導の未設置市町へ、設置に向けた取組を行う必要がある。

【協議題】
「教育機関と医療・保健・福祉・労働等の関係機関及び親の会等関係機関との連携促進」

「個別の教育支援計画等の活用の現状と課題」、「教育機関と関係機関、保護者との効果的な連携のために必要なこと」の２つを協議の柱として、３つのグループに分かれて協議を行いました。

就学前 → 在学中 → 卒業後

Aグループ
（幼稚園・小学校・医療機関）

- 個別の教育支援計画作成に膨大な時間を要するため、作成が進まないことがある。
- 個別の教育支援計画を活用し、年間通して子どもの様子や成長を振り返る必要がある。
- 小学校から幼稚園に園児の様子を見に行く回数を増やすなど、架け橋期における幼保小の連携を促進する必要がある。

Bグループ
（中学校・社会福祉課・児童相談所・親の会）

- 通常の学級に在籍する支援が必要な生徒の個別の教育支援計画の作成が進まず、学級担任任せになっていることがある。
- 必要に応じて関係機関が連携し保護者と面談を行うなど、保護者に寄り添った対応を行うとともに、個別の教育支援計画を活用し指導や支援につなげる必要がある。

Cグループ
（高等学校・特別支援学校・ハローワーク・相談支援センター）

- 中学校の通常の学級から高等学校に入学する際、適切に支援が引き継がれないことがある。
- 発達障がい等だけでなく、心因的な疾患のある生徒への支援を引き継ぐ必要がある。
- 連携促進に向け、胆振管内の支援マップを更新し、保護者や学校、関係機関に相談先や連携先の窓口を周知する必要がある。

（まとめ）
障がいの有無に関わらず誰もが生き生きと活躍できる共生社会の基盤となる特別支援教育の充実に向け、個別の教育支援計画の作成及び活用を推進し、教育機関と関係機関との連携促進を図る。

今年度の協議でいただいた意見やまとめを基に、次年度の取組の方向性や具体策について検討します。

特別支援連携協議会メッセージ
個別の教育支援計画を連携のマストアイテムに
～胆振で学ぶこと、働くことに向けた切れ目のない一貫した支援の充実を目指して～